ジャングルボーイ

24

作、東健児
画、野田新太郎

富士會

崖(ガケ)の上(ウエ)から蛇(ヘビ)使(ツカイ)の老婆(ロウバ)が
ピィピィピィピィピィピィヒヤララ……
ピィピィピィピィヒヤラピィヒヤララと
大蛇(ダイジャ)マンボーを呼(ヨ)びよせる、
フエをふきならした、
「マンボーよ早(ハヤ)く来(コ)い」

東京都江戸川区鹿骨五丁目一七一
永田為春
電話（三六七）五九一一番

笛の音にどこからともなく
姿を現した。大蛇マンボは
タイガーや二重俵面の
前に出て来た。
「タイガーめ、ひとのみにして
やるぞ」と、まちかまえていた
タイガーは、
「マンボお前なんかに
飲まれてたまるか」

東京都江戸川区鹿骨五丁目一七一五
永田為春
電話（三六七）五九一一番

56-3
E-95

ウオーッ……タイガーは
その上を飛びこえ蛇の谷を
あとにするのであった。
「ちく生ー逃げやがったな」
と、くやしがるマンボであった。
「逃げるが勝だ」

東京都江戸川区鹿骨五丁目一七ー五
永田為春
電話（三六七）五九一一番

そして、

ようやく安全(アンゼン)なところまで

逃(ニ)げて来(キ)たタイガー達(タチ)は、

「もうここまでくれば

あんぜんだろう」

「お銀(ギン)ちゃんのキズの手当(テアテ)を

しよう」

東京都江戸川区鹿骨五丁目一七―五
永田為春
電話（三六七）五九一一番

56～5

タイガーから お銀(ギン)をおろすと、

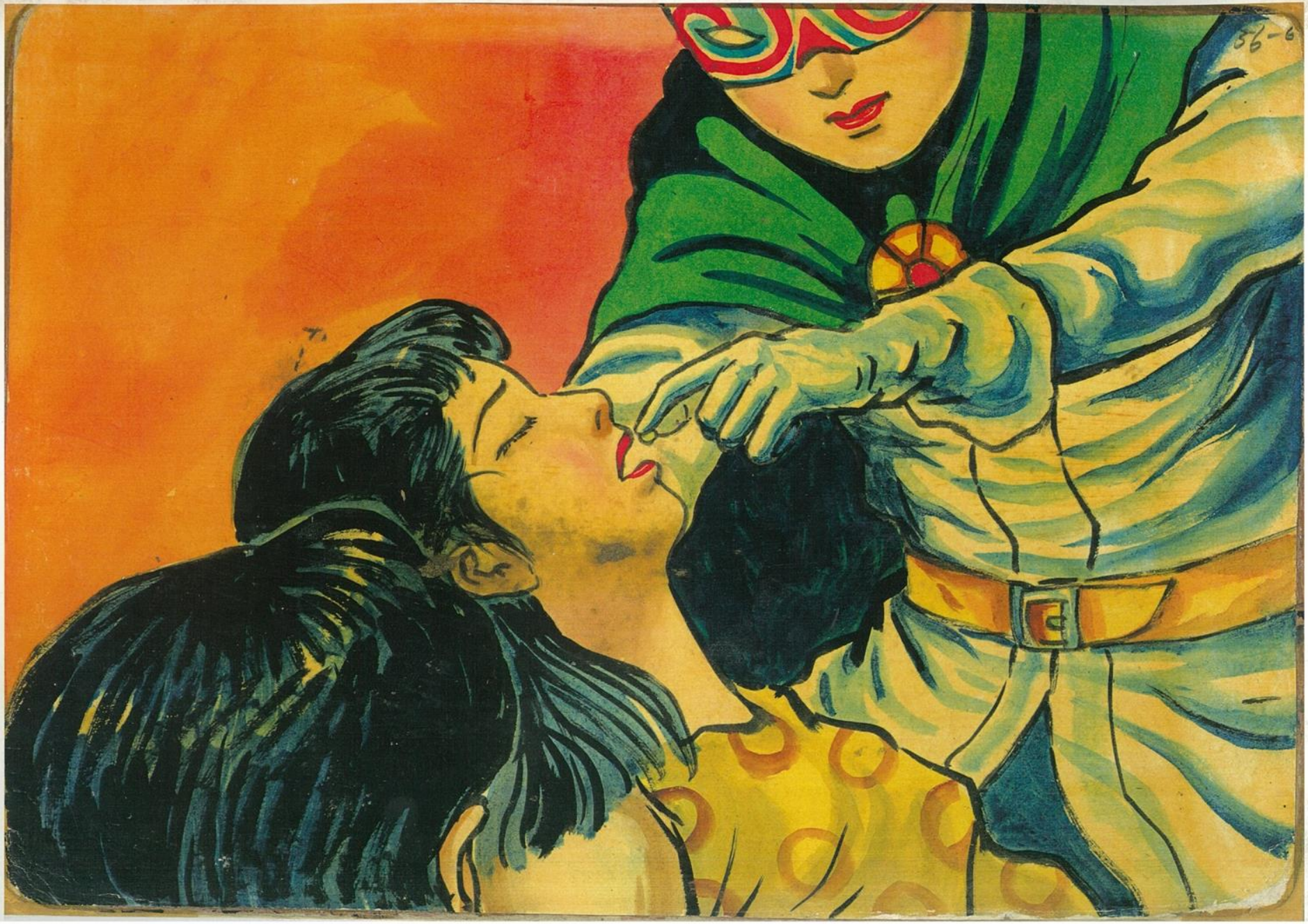
ニ「お銀(ギン)ちゃん しっかり

するのです」

ツ「大丈夫(ダイジョウブ)でしょうか」

ニ「そうだ 良(ヨ)い薬(クスリ)がある」

東京都江戸川区鹿骨五丁目一七一五
永田為春
電話(三六七)五九一一番



二重(ニジュウ)仮面(カメン)は
取(ト)り出(ダ)した青(アオ)い玉薬(ガンヤク)を
お銀(ギン)の口(クチ)へ入(イ)れた。
「これをのめば間(マ)もなく
気(キ)がつく。はずだ」

東京都江戸川区鹿骨五丁目一七―五
永田為春
電話（三六七）五九一一番

56～7

しばらくすると薬(クスリ)がきいたのか、
お銀(ギン)は、パッチリ目(メ)を開(ひら)いた。
「まァ・・・私(ワタシ)は どうしたの
でしょう、ながいあいだ
眠(ネム)っていたようだワ・・・」
「良(ヨ)かったネェ・・・お銀(ギン)ちゃん」
だが・・・・・・

東京都江戸川区鹿骨五丁目一七一五
永田為奉
電話（三六七九）五九一一番

喜ぶ(ヨロコ)ツヨシ達(タチ)のうしろに
KK団(ケケダン)を引(ヒ)きつれた
アイアンクロウが現(アラワ)れた。
「こんどこそ逃(ニ)がしはせぬぞ
それ～ィかつれ～～」
とせまって来(キ)た。

東京都江戸川区鹿骨五丁目一七一五
永田為春
電話(三六九)五九一一番

56 ～ 9

一方蛇使の老婆は笛の
音を高くひくく吹きならし
ピイ ピイ ピイ ピイ ピイヒヤララ……
大蛇マンボの首に乗り
数千匹の小蛇をしたがへ
ザワザワザワと、おしよせて来た、
あゝ前と後からせまる
大の手を、ツヨシ達は、無事に
のがれる事が出来るでしようか？
続きは次回のおたのしみです。

東京都江戸川区鹿骨五丁目一七―五
永田為春
電話（三六七）五九一一番

56～10

ジャングルボーイ

56～巻

東京都江戸川区鹿骨五丁目一七一九
永田為春
電話（三六九）五九一一番